

岩手県技術士会 部会活動報告

活動名	害鷹森周辺の「風衝荒廃地の緑化施工地」の現地見学会 (CPD 番号 22-6)
主催	森林・水産 部会
日時	平成 22 年 7 月 3 日 (土) 9:00~17:30
場所	岩手県宮古市夏屋地内
参加人数等	19 人

活動内容

1, 見学会の概要

現地説明者 森と緑の研究所 村井 宏 氏

1) 北上高地の標高 800m以上の西～南西向き斜面に存在する事が知られていた「風衝荒廃地」の発生メカニズムについて、考えられている「周氷河現象」について説明を受け、現地にて意見交換を行った。

2) ・昭和 48 年度より施工が行われ平成 2 年度に概成している外山地区は、事前環境調査や緑化試験を行い、その結果を参考に試行錯誤しながら実行した治山事業である。

・平成 5 年度から平成 12 年度まで治山事業が行われた害鷹森地区は、宮古市「かわい木の博物館」の 16 分館の中の一分館 8 号「治山の森」として活用されている。

・平成 3 年度から平成 9 年度に国有林側の治山事業が行われ、平成 15 年度から平成 17 年度に民有林側の治山事業が行われ概成している堺の神地区。

この 3 地区を見学し、植生の回復状況、施工時の試行錯誤の工法検討などについて説明を受け意見交換を行った。

2、感想

治山事業を行う前の荒廃状況の写真を見ると、植生が回復している現地の状況からは当時の様子はうかがえない。この地に緑をよみがえらせた技術は、当時の技術者の試行錯誤の結果もたらされたものである。御苦労された技術者の方々に敬意を表したい。



害鷹森地区



堺の神地区



外山地区